

II 研究内容

シンキングツールを活用して、 身近な課題に気づき、考え、行動にうつす子どもの育成

～4年生、ふるさと甚目寺「環境にやさしい町づくり」の実践から～

海部・甚目寺小学校

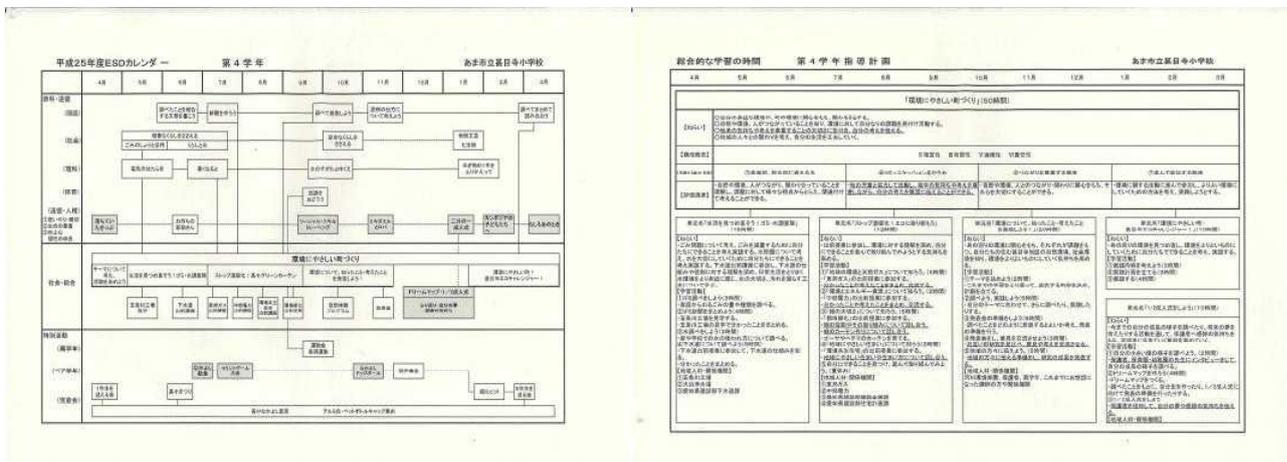
1 研究の概要

(1) はじめに

本校は、総合学習を「ふるさと甚目寺」とし、人・町・福祉・環境・産業・歴史、と毎年異なるテーマを設定して系統的に郷土学習を進めている。また、E S Dの視点を取り入れ、教育活動を進めて3年になる。E S Dの大切にしている「価値観」「育みたい能力・態度」をもとに、活動内容のつながりを大切に作成したE S Dカレンダー・指導計画を活用して、毎年、子どもの実態に合った総合学習のあり方を模索し、改良を続けている。

E S Dは、「持続可能な社会の担い手を育む教育」といえる。子どもたちが住みたい、または住みやすい社会のイメージをもち、そこに向かう間に生じている課題を自分の問題としてとらえ、課題解決のために実行に移していく。これをきっかけとして現在生きている生き物、未来の世代、地球のこれからを考えていく。本校ではこのようにE S Dの理念に沿った総合学習のとりくみを行っている。

本研究で対象学年としているのは環境をテーマにふるさと甚目寺を学習している4年生である。



【ESDカレンダー】

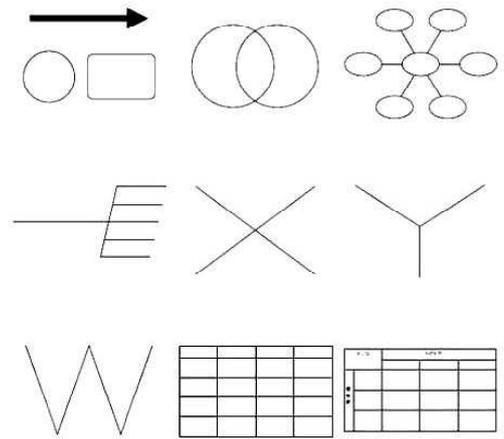
【指導計画】

(2) 研究の目標とめざす子どもの姿

4年生は、明るく前向きで活発な子どもたちが多い。また、素直に助言を受け入れるよさがある。しかしその反面、努力することを面倒だと感じる子どもが多い。さらに、多くの子どもが、自分の考えをもったり、発表したりすることに消極的である。

また、E S Dの視点を取り入れて作成したカレンダー・指導計画を意識するあまり、取組の見通しはもてるが、決まった方向にしか進まない恐れもある。そのような場合、知ることではできても、自発的に行動に移すような学びにまで深めることは難しい。子どもの考えが積極的に交換され、磨き合われない様子ならばなおさら教員主導になってしまうであろう。

以上のような実態から、身近なことに対して、まずは自分で気付きたい、考えたいという姿勢を大事にしたいと考えた。そして課題に対して気づき考えたことを発表し合い、話し合う中で、友だちの考えを刺激として、さらに学習を深めてほしい。そして環境にやさしい町を一人ひとりが主体的に考えるようになってほしい。これらの願いをもって、話し合いを活性化できるようシンキングツールを取り入れ、本単元を設定した。



【シンキングツール】

シンキングツールとは、K J法やウェビングマップなど、頭の中の情報を書き込むための図形の枠組みである。頭の中にあるイメージや情報を外に出すことを促し、視覚化されたものの関係性を見つけやすくするはたらきがある。

本研究を通してめざす具体的な子どもの姿は、以下の通りである。

- 今、地球で起きている環境問題について自分にも関係あるものとしてとらえ、問題点に気付くことができる子ども。
- 環境問題に対してどうり組んでいきたいか、自分の考えをもつことができる子ども。
- 環境にやさしい町のイメージをもって、身近なことから自発的に環境に対するとりくみをすすめることができる子ども。

(3) 研究の仮説と手だて

【仮説1】

環境の課題を自らの問題としてとらえて、身近なところからとりくもうというESDの考え方を取り入れ、体験や話し合い活動を重視した総合学習を計画するならば、積極的に気づき・考えようとする子どもを育むことができるであろう。

4年生にとってはまず、環境とは何か、どんな問題が起こっているのか、それが地球にとってどうよくないことなのかを知る必要がある。子どもの自発性を大事にした柔軟な考え方でESDカレンダーを改良しながら進めていきたいと考えているが、まず知ることに関しては、子どもに知識が身につくような教員の支援が必要である。だが、そこは教員から子どもの一方通行ではなく、各方面からゲストティーチャーを呼び、本物を見たり、感じたり、という活動を重視したとりくみを行うことで、子どもの意欲が高まり、よりたくさんの方の気づきや考えを生むであろう。

【具体的な手だて】

- ① ESDカレンダーの柔軟な活用と子どもの実態に合わせた改良
- ② ゲストティーチャーを招いた活動中心の「知る」とりくみ

まず、総合学習と社会科のつながりを意識したごみの学習において、地域のごみを処理している五条川工場の見学をした。五条川工場では、ごみの焼却処分だけでなく、焼却の過程で発生した灰をさらに溶融し再利用していることを知った。また焼却の熱で水を温めて発電し、工場内の電力をまかなっていることも学んだ。子どもたちからは、「分別をしっかりしなければならない」「ごみを減らしたい」という声があがった。これらの学習で、自分が出すごみを見直すきっかけとなり、またゴミ処理場の環境に対するとりくみが、子どもたちの環境学習の意欲付けとなった。



【五条川工場の見学】

【授業後のAの感想から】

教科書を読んでわかっていただけ、自分の出したごみがどうなっているのかちゃんと見ることができてよかったです。案内してくれた〇〇さんから聞いて、環境問題はわたしたちが出すごみと関係していることがわかりました。これからは分別だけじゃなくてごみを減らすことをがんばりたいです。

【実態】

- ・ ごみの視点から環境について考えようとする意欲付けになった。
- ・ 具体的なとりくみにまでは考えを深めることができていない。



【手だて】

- ・ 学びが新しいうちに今気付いたことや考えていることをアウトプットし、思考を整理するために、シンキングツール（KJ法）を用いる。（③）
- ・ 話し合うことで、友だちの意見から刺激を受け、学びが深化される。（③）

その後、感じたり考えたりしたことをより具体的に行動に移すことができるように「ごみを減らすために」という題目でKJ法を用いて意見を整理した。KJ法を用いることで自分の考えが伝えやすくなり、他者の気持ちや考えを尊重しながら話し合い活動を行うことができた。子どもたちは意見を集約する新しい方法に戸惑いながらも、「意見をみんなが真剣に聞いてくれた」「自分と似ている意見があっとうれしかった」と楽しみながら取り組んでいた。

次に、水の視点から環境について学ぶ学習では、浄水場と下水処理場について学習した。愛知県建設部下水道課の職員を講師に招き、生活排水をそのまま川や海に流さず、下水処理場できれいにしてから排水するしくみについて学んだ。試薬を使ったパックテストでは、台所からでるわずかな醤油、ジュースなどで、生き物にとって住みにくい水質になることに子どもたちは驚いていた。さらに、汚れた水をきれいにするために、薬品ではなく微生物による自然の力を活用していることを知った。「微生物が自分たちの生活の役に立っているなんて知らなかった」と子どもたちは注目していた。この学習の後、水を使用する際に出しっぱなしにしているかとか、汚れた水をできるだけ出さない方法はないかと、考えながら生活する様子が見られるようになった。



【パックテストの実験】

(2)「ストップ温暖化！エコに取り組もう」

年度始めに「環境について知っていること」を聞くと、地球温暖化について挙げる子どもが多かった。地球温暖化の問題は、実際肌で体感でき、マスメディアでもよく取り上げられていることから子どもたちの関心は高いようであった。だが、言葉は知っていても、地球温暖化がどのような原因で進んでいったか、その問題についてどんな対策がなされていて、一人ひとりがどうとりくんでいくことが大切であるかまでは分からないようであった。



【ガスの出前授業】

そこで、東邦ガスの方を招き、地球の環境とガスについて出前授業を行った。石油、石炭などの化石燃料を燃やし続けた結果が温暖化の一原因となり、南極の方では氷が溶け水面が上がり、北極の氷が溶けることによりシロクマやアザラシなど生き物にも悪影響を及ぼしていること、化石燃料の資源には限りがあることを知り、省エネルギーの行動をしようという意識を高めることができた。

次に、中部電力の方を招いてエネルギーの中でも電気という側面から温暖化について学んだ。日本が世界で第5位のエネルギー消費国であること、温暖化の原因となる二酸化炭素は発電時にも発生することを知り、より温暖化問題を身近にとらえることができた。また、身近な行動で二酸化炭素を減らす方法も知ることができた。

また、愛知県建設部住宅計画課の方を招き、地球に優しい住まいや住まい方についての出前授業を受けた。緑・日・土・水・木・風・火という7つのいのちの恵みをヒントにして、地球と上手につき合える方法を考えた。そして、自然の材料やエネルギーを生かし、地域の気候や風土に合った方法を工夫することで、地球に負担をかけすぎない生活をしていく必要性を学んだ。また、土や木の素材でできた瓦や継ぎ手に触れ、自然の温かみや良さを感じることができた。



【自然の素材に触れる子ども】

そして、理科とのつながりを意識した総合学習としてヘチマとゴーヤを栽培し、グリーンカーテンを作ることに取り組んだ。そこでグリーンカーテンを作ることでどんな効果があるのかを詳しく知るために、都市緑化に長年とりくんでいる地域の方に講師をお願いし、出前授業を行った。人工の建物が増え、各地の気温が年々上昇していることや、その影響で熱帯にいる生物が都市部でも見られるようになってきたことを知り、環境に関するクイズを解きながら、新たに知ったことを興味深く聞いていた。グリーンカーテンによって、どのくらい涼しいのかを体感できるのかと楽しみにしている子どもたちも多く、日々の観察の中で虫がヘチマやゴーヤの花によってきていることに興味をもっている子どもたちもいた。夏に近づくにつれ、蔓を伸ばし、実をつけていく様子に、子どもたちも毎日の登校が楽しみになっているようだった。夏休みも子どもたちは自主的に水やりをしに登校した。夏の出校日の日には多くのグリーンカーテンができあがり、子どもたちはグリーンカーテンの内側に入り、涼しさを体感していた。



【ゴーヤのグリーンカーテン】

(3)「環境にやさしい町・甚目寺エコチャレンジャー！」

【授業後のAの感想から】

今日先生に今までのふるさと甚目寺の特別授業の数を数えてごらん、と言われて数えてみたら7つもあっておどろきました。それぞれの先生は話していることはちがうけれど、みんな環境についてすごい真剣に考えていて、わたしたちに分かりやすく教えてくれました。だから、わたしもまずは一つでも身の周りのことから環境をよくするためにとりくんでいきたいと思います。

【実態】

- ・ さまざまな視点から環境に対するとりくみを聞くことができ子どもたちの知識が広がった。
- ・ 「気付く」「考える」を繰り返しているうちに自分も環境を良くするために行動してみたいという意欲がわいている子どもたちが多くなった。

↓

【手だて】

- ・ まずは自分たちで考えたことを自由にチャレンジさせてみる。(④)
- ・ それをフィードバックし、友だちと話し合うことで、さらに持続的なとりくみとして、続けていく。(③・④)

これまでに環境について学習したことをもとにして、子どもたちは少しずつ「知る」ことから「行動する」ことへ関心を高めていった。まずは環境について興味をもったさまざまな活動に自分なりにとりくんだ。ワークシートを用い、研究動機から研究内容、研究結果まで項目を立て、レポート形式で自分の思考の流れがわかりやすく表せられるようにした。また、結果からわかったこと、新しく出てきた疑問を考えることで、次の活動につなげることができた。子どもたちは、グリーンカーテンの効果を実際に調べたり、家庭のごみを減らす方法を考え実践したり、温暖化を防ぐ方法を実際に行い、その効果を確認したりしていた。中には、廃油から石けんやキャンドルを作る子ども、ごみをリサイクルし、そして涼しさを感じ取ろうと風鈴を作ってくる子どももいた。

2学期の始め、夏休みのとりくみを共有し、発表会へとつなげていく単元の導入授業を行った。まず、一人ひとりが行った



【KJ法でまとめる子ども】



【環境についてとりくんだときの気持ち】

とりくみを発表した。子どもたちは友だちの発表を興味深く聞き入っていた。水に関するテーマを設定した子ども、ごみに関するテーマを設定した子ども、緑に関するテーマを設定した子どもなど、分野が広がっていたのもあり、さらに環境についての理解を深めるきっかけにもなった。発表し終わった後、子ども一人ひとりのとりくみを評価し、エコチャレンジャーに任命をした。エコチャレンジャーに任命されたことに子どもたちは喜び、「まだとりくんでみたい活動がある」「あまりうまくいかなかったところもあるからもう一度再チャレンジをしたい」「今度はみんなで協力して一つの活動をしたい」という声があがった。

次に、「環境問題について自分なりにとりくんでみて感じたこと」という大きな題目で子どもたちの意見を出し合い、KJ法を用いてまとめていった。夏休みに取り組んだテーマが多岐に渡っていたことから、「自分だけでなく周りの人も誘い合ってみるみんなでやっていくことが大切だと思う」「すべての環境問題はつながっていると感じた」などさまざまな観点から意見が出て、結果的に「地球にやさしい町づくり」という学年の総合テーマに通ずるような内容の表になった。そして、KJ法でまとめながらも自分の意見を話し合う中で、さらに自分たちの手で環境を良くしていこうという意識が高まっていくのを感じた。そこで、次に「どんな発表会にしたいか」を自分の言葉で表し、それを話し合いでまとめる活動を行った。子どもたちからは「環境についてみんなで考える発表会にしたい」「見に来た人にも、ちょっとしたことから環境問題に取り組むことを知ってもらえ、行動したいと思ってもらえる発表会にしたい」など意見があがり、発表会へと意識が向くきっかけとなった。

校外学習では、岐阜県にある河川環境楽園に行った。ここでは、自然体験から環境問題について考えるワークショップに参加した。子どもたちは「地球温暖化の海」「プラスチックの海」「川を汚したのは誰？」「今、そこ

【授業記録より】

(「環境問題についてとりくんだときの気持ちを素直に表現しよう」を書いて)

T:どんな気持ちになった？素直な意見が聞きたいな。

C:ずっとやりたかったから気持ちよかったって感じですよ。

C:自分で計画して1からやるのって大変でした。

C:でもやったからこそわかったこともありました。

T:へえ。どんなことがわかったの？

C:うーん。環境を悪くするのは簡単だけれど、よくするのは難しいってということかな……。

T:深いね。すごい学びだ。

C:でも先生、それだったら結局環境はよくなっていかないと思います。

T:何で？

C:だって面倒くさいから……。

C:ぼくも。確かに面倒くさいっていう気持ちはあった。

C:でも……。

T:でも何？

C:楽しいし、何かやさしい気持ちになれたし、うれしい気持ちもありました。

C:それはぼくも一緒です。

T:いい気付きだね。他にはあるかな。

～中略～

C:わたし、思ったんですけど、一人がやったことってきっとほんの少ししか変わらなくて、大事なんだけど続くのかなあって心配で……。

C:それわかります。だからみんなで協力したいし、発表会でも呼びかけて仲間を増やしたいです。



【川を汚したのは誰？】

にある危機」という4つの講座に別れ、アクティビティを体験した。一人で環境について取り組むことは夏休みに行ったが、友達と取り組むことは初めてであったので、子どもたちはとても楽しみながらこれまでの学びを再確認し、さらに新たな気づきを得たこともできた。

総合学習発表会では、ごみ・下水・水・温暖化・エネルギー・緑化など、自分の関心の高いことを、自分の考えを交え発表した。発表会の事前には、花や緑にふれあい、花のある暮らしを楽しむ豊かな心と、やさしい気持ちを育む花育の出前授業を受けた。子どもたちはアルミ缶を再利用したもので花器を作り、そこに季節の花をアレンジメントしていった。でき上がった作品は発表会で展示をした。子どもたちはもちろん、保護者の方も、身の周りのごみを上手に再利用し、きれいに飾ったアレンジメントフラワーに感動しているようだった。発表会に向けての導入では、ワークシートに「自分が何を発表会で伝えたいか」をまとめたことにより、一人ひとりが主体的に原稿を作成したり、協力してポスターを作ったりする様子が見られた。中には、水が汚れる原因を模擬実験し、それを見せることで発表に説得力をもたせようとするグループもあった。発表の最後には、実際に体験したことをもとにしたり、インタビューをして聞いたことをふまえたり、出前授業で知った知識をまとめたり、一人ひとりが多様な方法で、今自分に出来ることは何かを発表した。「水道の蛇口やお風呂のシャワーをこまめに止めて水を大切にします」「温室効果ガスによる影響で、困っている生き物がいるので、助け合うためにも、移動は車ではなく電車や自転車にしたい」「ごみのポイ捨ては絶対にしないでほしい、また、川や木々の気持ちになって、自然の中へ行っても汚さないようにする」「物をすぐ捨てるのではなく、他に使い道はないか、誰か必要としている人はいないか考えたい」など身近にできることで決意表明をした。



【花育の出前授業】



【総合学習発表会の様子】



【実験を取り入れた発表】



【劇を取り入れた発表】

3 研究の成果と今後の課題

(1) 手だて・仮説の検証

具体的な手だてについてそれぞれ検証をし、仮説に対しての検証を行う。

- ① 本研究では、最初に環境について知っていることを自由に書かせることで、子どもの今の実態がよくわかり、その後の学習の流れをまずは「知る」ことに重きをおいたものに変えることができた。ESDカレンダーをもとにした総合学習を行う際は、どのテーマにおいてもテーマとの出会いを大切にしたい。また、シンキングツールを用いることで、全員の今考えていることが一目でわかり、その後の発問や、学習に反映することができた。
- ① さまざまな視点から環境についての話を聞くことは子どもたちの意欲の向上にもつながる。子どもたちの中には、ガスのことは興味があまりわかかなかったが、電気のこ

とには興味を示し、そこから温暖化について調べ、結果的にガスについても興味をもって調べるようになったということもあった。準備や打ち合わせはたいへんではあるが、結果的に子どもたちの環境に関する知識の幅は広がり、考えも深まった。

【仮説1の検証】

環境の課題を自らの問題としてとらえて、身近なところからとりくもうというESDの考え方を取り入れ、活動を重視した総合学習を計画したことによって、自ら積極的に気付き、考えようとする子どもが増えた。

③ シンキングツールを用いたことで、普段発表することが苦手で、グループ活動に入りきれない子どもも意見を書いて、発表することができた。また、シンキングツールを使うこと自体を楽しむ子どももいて、友だちの意見に刺激を受けている様子がよく見られた。また、教員側も子どもたちの意見が一目で分かり、意識の変容もとらえやすかったと考える。道徳や図工の授業でも活用することができた。

④ 一人ひとりが環境に対する身近なとりくみを行い、それを評価し、エコチャレンジャーと任命したことで、さらに環境問題への関心が高まった。本を読んで調べ学習を行うだけでなく、自分で一から考えてとりくむことで、自信をもって発表することができた。発表会後はエコチャレンジャーとして、みんなで協力して何にとりくめるかを話し合い、川や公園の掃除も行うことができた。



【劇を取り入れた発表】



【KJ法「葛目寺エコチャレンジャー」】

【仮説 2 の検証】

話し合いを行い、気づきや考えを磨き合わせることで、自分自身の考えを深め、身近なところから環境に対するとりくみを行っていこうとする子どもを育むことができた。

(2) 反省と今後の課題

わたしは1年間、環境について学んできました。最初わたしは、環境という名前の意味も分からずにいました。でも先生は「そのうち分かってくるよ。」と言いました。でも今は環境問題だけじゃなく、よい環境にするために何をしていくことが大切なのかも説明できるようになりました。今までたくさんの人に環境について教えてもらったことを感謝しています。そして1番感謝しているのはこの地球です。そんな気持ちを忘れずに、これからも環境にやさしい町になるように身近なことからみんなで協力してとりくんでいきたいです。今わたしのクラスでは「もったいないばあさん」がブームです。この前公園の掃除にみんなで行ったときも「もったいない」と言いながら行いました。ぴかぴかになった公園を見て低学年の子たちはびっくりしたかな。次からきれいに使おうと少しでも思ってくれたらうれしいです。こうやってみんなに少しずつ環境にやさしい町づくりが広がっていくとうれしいです。

この子どもの作文にもあるように、子どもたちは1年間でテーマである「環境にやさしい町づくり」について大切なことに気付いていった。それは、「1人の100歩より100人の1歩」だということ。そして身近なことから楽しくこつこつと行うこと。これは、総合学習だけに限らず、心の教育としても大事なことだと考える。

本実践では、下水処理場、環境共生住宅、河川環境楽園などの講師の方のお話など、見学および多くの専門家の方の話を聞く機会を設けたことで、環境についての興味・関心を高めることができた。そして、子ども一人ひとりの課題設定の貴重なきっかけとすることができた。また、ヘチマ・ゴーヤの栽培をきっかけにして、自宅でもグリーンカーテン作りを行った子どもが多くいた。さらに、自分なりに環境問題についてとりくんだこともあり、子どもだけでなく家庭ぐるみで環境への関心が高まることにつながったと考える。

年間を通して、話し合いの場ではシンキングツールを用いてきた。それを取り入れたことにより、自分の考えが付箋を通して発表しやすくなっているようだった。また、自分の意見が取り入れられたり、友だちの意見が似ていることを発見し関連付けられたりする喜びを子どもは感じていた。初めこそ、戸惑いは見せたものの、回数を重ねるごとに、話し合いが円滑にすすむようになり、楽しみながら意見を共有し、まとめる様子が見られた。

1学期から「知る」機会を多く設定し、子どもたちの環境への知識と意識は高まっていた。2学期の「発表する」機会でも、自分で継続してとりくんでいきたいことを宣言し、実行することのきっかけとなった。ただし、いざ継続した実行となるとハードルが高いようにも感じられる。教員側が子どもたちにも簡単にできることを提示し、持続的に取り組ませることで習慣化が図られると考えられる。

最後に、子どもたちの思考の流れを意識して授業を組み立てていきながらも子どもたちの素直な発想や考えに驚かされることが多く、その都度今後どうしていこうかを考えた。ESDというレールはありながらも目の前の子どもを置き去りにしない、そんなバランスが大切だと感じた。

平成26年度ESDカレンダー

第4学年

あま市立基目寺小学校

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
教科・道徳 (国語)												
(社会)												
(理科)												
(体育) (道徳・人権) ①思いやり・親切 ②郷土愛 ③生命の尊重 <small>④向上心、動物の尊重</small>												
社会・総合												
特別活動 (異学年)												
(ペア学年)												
(児童会)												

※人権と関係が深い単元は、縦掛けと太字で示しました。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
「環境にやさしい町づくり」(50時間)												
【わらい】	○自分の身近な環境や、町の環境に関心をもち、関わろうとする。 ○自然や環境、人がつながっていることを知り、環境に対して自分なりの課題を見付け活動する。 ○地域の気持や考えを尊重することの大切さに気づき、自分の考えを伝える。 ○地域の人々との関わりを考え、自分の生活を工夫していく。											
【構成概念】	Ⅱ 相互性 Ⅲ 有用性 Ⅳ 連携性 Ⅴ 責任性											
【学習する能力・態度】	③多面的、総合的に考える力			④コミュニケーションを行う力			⑥つながりを尊重する態度			⑦進んで参加する態度		
【評価標準】	・自然や環境、人がつながり、関わり合っていること ・他の原資と協力して活動し、相手の気持ちを尊重し、相手の考えを尊重し、自分の考えを尊重し、自分の考えを伝えることができる。 ・自分なりの課題を見付け活動し、自分の考えを尊重し、自分の考えを伝えることができる。											
単元名「生活を見つめよう！ゴミ・水調査隊」 (15時間)	【わらい】 ・ゴミ問題について考え、ごみを減量するために自分たちができることを考え実践する。水問題について考え、水を大切にしているために自分たちができることを考え実践する。下水道出前講座に参加し、下水道の仕組みや役割に対する理解を深め、日常生活をよりよく水環境をより身近に感じ、水の大切さ、汚れを減らす工夫について学ぶ。 【学習活動】 ①ゴミ調べをしよう(3時間) ・家庭から出るごみの量や種類を調べる。 ②ゴミ新聞をまとめよう(4時間) ・五条川工場を見学する。 ③水調べをしよう(3時間) ・家や学校での水の使われ方について調べる。 ④下水道について調べよう(5時間) ・下水道出前授業に参加して、下水道の仕組みを知る。 ・分かったことをまとめる。 【地域人材・関係機関】 ①五条川工場 ②大治浄水場 ③愛知県建設部下水道課											
単元名「ストロップ温暖化！エコに取り組もう」 (12時間)	【わらい】 ・出前授業に参加し、環境に対する理解を深め、自分ができることを進んで取り組んでみようとする気持ちを高める。 【学習活動】 ①「地球の環境と天然ガス」について知ろう。(3時間) ・「東邦ガス」の出前授業に参加する。 ・分かったことや考えたことをまとめ、交流する。 ②「環境とエネルギー資源」について知ろう。(2時間) ・「中部電力」の出前授業に参加する。 ・分かったことや考えたことをまとめ、交流する。 ③「緑の大切さ」について知ろう。(5時間) ・「都市緑化」の出前授業に参加する。 ・緑の役割や子取り組みについて話し合う。 ・緑のカーテン作りについて話し合う。 ④「ゴージャスなカーテン」を育てよう。(2時間) ・「地球にやさしい住まい」について知ろう。 ・「環境共生住宅」の出前授業に参加する。 ・地球にやさしい住まいや住まい方について話し合う。 ⑤自分ができることを見つけ、進んで取り組んでみよう。(夏休み) 【地域人材・関係機関】 ①東邦ガス ②中部電力 ③愛知県建設部建設企画課 ④愛知県建設部住宅課											
単元名「環境について、知ったこと・考えたことを発信しよう！」(20時間)	【わらい】 ・身の回りの環境に関心をもち、それぞれが課題をもつ。自分たちの住む基目寺地区の自然環境、社会環境を知り、環境をよりよいものにしていく気持ちを高める。 【学習活動】 ①テーマを決めよう(2時間) ・これまでの学習をふり返って、追究する内容を決め、計画を立てる。 ②調べよう、実践しよう(5時間) ・自分のテーマに合わせて、さらに調べたり、実践したりする。 ③発表会の準備をしよう(5時間) ・調べたことなどをどのように発表するとよいか考え、発表の準備を行う。 ④発表会をし、意見を交流させよう(3時間) ・お互いの研究を比較し、意見や考えを交流させよう。 ⑤地域の方々に伝える準備をし、研究の成果を発表する。 【地域人材・関係機関】 河川環境美園、保護者、親学年、これまでにお世話になった講師の方や関係機関											
単元名「環境にやさしい町・基目寺エコチャレンジジャー！」(10時間)	【わらい】 ・今までの自分の成長の様子を調べたり、将来の夢を考えたりする活動を通して、保護者へ感謝の気持ちをもち、前向きに生きていく意欲を高めていく。 【学習活動】 ①自分の小さい頃のの様子を調べよう。(2時間) ・保護者、保護者・幼稚園の先生にインタビューをし、自分の成長の様子を調べる。 ②ドリームマップを作ろう(4時間) ・ドリームマップをつくる。 ・調べたことをもとに、自分史を作ったり、1/2成人式に向けて発表の準備を行ったりする。 ③1/2成人式をしよう ・保護者を招待して、自分の夢や感謝の気持ちを伝える。 【地域人材・関係機関】											
単元名「1/2成人式をしよう！」(10時間)	【わらい】 ・今までの自分の成長の様子を調べたり、将来の夢を考えたりする活動を通して、保護者へ感謝の気持ちをもち、前向きに生きていく意欲を高めていく。 【学習活動】 ①自分の小さい頃のの様子を調べよう。(2時間) ・保護者、保護者・幼稚園の先生にインタビューをし、自分の成長の様子を調べる。 ②ドリームマップをつくる。 ・調べたことをもとに、自分史を作ったり、1/2成人式に向けて発表の準備を行ったりする。 ③1/2成人式をしよう ・保護者を招待して、自分の夢や感謝の気持ちを伝える。 【地域人材・関係機関】											